

1. マップ改訂の方針

- ①マップについて、「学習指導要領との関係や学校現場の実情を踏まえた検討」を仔細に行う。
- ②「学校における金融教育推進のための懇談会」において改訂される『金融教育プログラム』中の「年齢層別の金融教育内容」（以下「年齢層別教育内容」という）と内容面での整合性を確保する。
 - 第3回推進会議において、「高校生以下の学校教育段階については、教育現場の混乱を回避し、教育の実効性を高める観点から、プログラムとマップの整合性を取りつつ、プログラムを基本に推進していく」ことについて合意された。
 - また、学校教育現場での混乱等を回避する観点から、マップの教育内容の表現や用語法についても、極力年齢層別教育内容に合わせることにした。
 - マップ自体について、複数の「分野・分類」で重複記述されていた教育内容の整理、より適切と考えられる「分野・分類」への教育内容の移動なども行った。

2. マップ改訂の概要

- 年齢層別教育内容を、基本的に全てマップに反映させることとし、表現や用語法も統一した。これに伴い、マップ側で生じる変更点を整理すれば、概要下表のとおり。
 - なお、年齢層別教育内容については、目下、懇談会においてさらに細部を検討中であるため、本案も「暫定案」との位置付け。今後、推進会議委員からの意見のほか、懇談会での検討結果をも踏まえ、来年1月中を目途に改訂案を取り纏める予定。

変更点の類型	マップ改訂の趣旨	具体的な改訂例
マップと年齢層別教育内容との「差分」の解消	内容面における大きな「差分」である「保険商品」等については、懇談会で年齢層別教育内容に追加される方向で議論されているため、「差分」は解消される見込み。	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、懇談会において追加する方向で検討されている「保険」関連項目や分散・長期投資等の内容をマップに反映させることとする。その際の現行マップとの大きな変更点は次の2点。 ✓教育内容を仔細に検討し、発達段階に応じて教育内容を細分化のうえ明確化した。 ✓そのうえで、適合する項目への紐付けや表現の適正化を行った。
教育内容の追加	年齢層別教育内容の拡充により、新たに追加された事項をマップにも反映。	<p><自立した消費者の育成に関する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学生・家計管理；「効率、公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる」 ● 高校生・金融取引の基本；「消費者保護の重要性について、情報の非対称性の観点から考える」 <p><経済の動きが個人の生活に及ぼす影響に関する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学生・金融共通；「政府の景気対策について理解する」⇒「<u>政府の経済対策と暮らしの関係について理解する</u>」
「関心・意欲・態度」の更なる明確化	年齢層別教育内容において、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせるとの考え方が一段と明確に示されたことを受け、その趣旨をマップにも反映。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生・生活設計；「年金や社会保障制度（や…）を理解する」⇒「<u>年金や社会保障制度を理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考える</u>」 ● 中学生・金融取引の基本；「契約の基本を理解する」⇒「<u>契約の基本を理解し、安易な約束はしないなど、慎重な態度を身につける</u>」
発達段階に合わせた教育内容の変更	年齢層別教育内容において、教育内容のレベル感と児童・生徒の発達段階との関係で一部調整されたことを受けて、マップでも同様の調整を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生・保険；低・中・高学年を区別しない教育内容⇒低・中・高学年別に教育内容を定め、レベル感も調整 ● 小学生高学年・資産形成；学校教育現場での実情等を踏まえ、「金利計算（単利）などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する」を追加 ● 高校生・資産形成；「家計資産のマネジメントとして、自らのリスク許容度を把握することができる」⇒発達段階に照らし、内容のレベル感が高過ぎるため削除（同趣旨の教育内容は、現マップでも大学生段階で定義済み）
教育内容と分野・分類との関係付けの変更	現マップの教育内容について、その趣旨と分野・分類との紐付け関係がより適切になるよう、一部内容を配置換え（内容不変）。	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生低学年・家計管理；「こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする必要性に気づく」⇒将来の支出を展望しつつ行動するとの趣旨であるため、生活設計に移動 ● 中学生・生活設計；「インターネット等を通じたお金にまつわる身近なトラブル・犯罪事例について考える」⇒金融取引の基本・インターネット取引の留意点に移動
教育内容の重複記述の解消	現マップにおいて複数の「分野・分類」に重複して定義されている教育内容について、より適切的な「分野・分類」で定義し直した。	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生・ローン・クレジット；「こづかい帳をつける」、「金銭を計画的に使う」⇒家計管理や生活設計に集約し、ローン・クレジットの分野では削除 ● 中学生・生活設計；「ローンの仕組みと役割、留意点について理解する」⇒ローン・クレジットの分類で一元的に定義することとし、生活設計からは削除

各年齢層に応じ習得すべきスタンダード

分類1 家計管理

<色分けの意味>

赤字：プログラム改訂を受けた項目の追加・削除、または内容修正

青字：プログラム改訂を受けた「意欲・関心・態度」にかかる修正

緑字：現行マップからの表現や配置の変更（内容不変）

紫字：現マップに未反映だったプログラム記載項目の反映

適切な収支管理（赤字解消・黒字確保）の習慣化（報告書：項目1に対応）

小学生			中学生	高校生
低学年	中学年	高学年		
<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
<p>○ものには価値があることを知り、ものを大切に使う習慣を身につける</p> <p>○お金の価値を知り、お金を大切にする</p> <p>○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解する</p> <p>○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知り、欲しいものが手に入らない場合にがまんできるようになり、予算の範囲内でものを買うことができる</p> <p>○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする必要性に気づく<生活設計へ移動></p>	<p>○資源の有限性、希少性ものやお金には限りがあることを理解するし、大切に使う</p> <p>○お金は貯めて将来使えることを理解する</p> <p>○買い物にあたって、必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）を区別することができる</p> <p>○お金の使い方を通じ節度ある生活の大切さに気づき、実践する</p> <p>○年齢相応の金銭管理をする</p> <p>○こづかい帳をつける</p> <p>○こづかいの出入りを記録することなどを通じて、お金を管理する<上記2項目を統合し、表現をプログラムに合わせる></p>	<p>○ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える</p> <p>○暮らしを通じてお金の様々な役割はたらきを理解する</p> <p>○必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）を区別し、計画を立てて買い物ができる</p> <p>○商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる</p> <p>○他の人の考えを知ったうえで、自分なりの考え方に基づき支出などを行う態度を身につける</p>	<p>○財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする</p> <p>○家計の収入・支出について理解を深めする</p> <p>○必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）を区別し、主体的・計画的にもものやサービスの選択・購入および使用ができる</p> <p>○実践的な収支管理（クラブ活動・修学旅行等）を行う</p> <p>○各種カードなど見えないお金の使いすぎに気をつける</p> <p>○人には様々な価値観があることをお金の使い方を通じて理解するとともに、責任あるお金の使い方を実践する態度を身につける</p> <p>○効率、公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる</p>	<p>○資源の有限性・希少性を理解し、財やサービスの購入に当たって、よりよい選択ができる</p> <p>○現在の自分の生活や学習などにかかっている費用を知り、家計全体を意識して自分の支出を考える態度を身につける<生活設計から移動したうえで、下記の「家族の一員として…」と統合し、表現を見直し></p> <p>○長期的・計画的な資金管理の大切さを理解する</p> <p>○必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）を区別し、主体的・計画的に支出を行う態度を身につける</p> <p>○家族の一員として家計全体を意識しながら支出管理などができる<上記の一文に統合></p> <p>○実践的な収支管理を行う（クラブ活動・学校行事等）</p> <p>○進路選択などを通じて意思決定の重要性を理解する</p>

				<p><u>○現代の消費生活の課題を認識し、消費者として適切に意思決定できる</u></p> <p><u>○希少性、選択、トレードオフ、機会費用、効率、公正などの概念を用いて、よりよい意思決定ができる</u></p>
--	--	--	--	--

分類2 生活設計

ライフプランの明確化およびライフプランを踏まえた資金の確保の必要性の理解（報告書：項目2に対応）

小学生			中学生	高校生
低学年	中学年	高学年		
<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づきたい。</p>
		<p>○自らの夢を描き、実現に向けて努力する態度を身につける</p>	<p>○将来の夢や希望をもち、その実現に向け何が必要かを 知り、努力する態度を身につける</p>	<p>○将来の夢や希望を実現するための現実的なステップ や手段を考え、なすべき努力を実践するしようとする態度を身につける</p>
<p>○家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を自覚するとともに、自分が役立っていることを知る ○働く人々の素晴らしさに気づく ○お店の人の工夫や努力をみて、働くことの素晴らしさに気づく ○お店の人の工夫や努力に気づく ○友だちと協力して活動しようとする</p>	<p>○自分の仕事に責任をもち、最後までやりとげる態度を養う ○校内活動等を通じて、働くことによりお金を得ることの大切さを理解する働くことの喜びと大変さ、お金の価値の重さを理解する ○お店の人が願いを実現するために、様々な苦労や工夫をしていることに気づくお店の人の願いを知り、様々な苦労や工夫をしていることに気づく</p>	<p>○勤労働くことの大切さと金銭を得ることの苦労を理解するが分かる ○働くことが社会に役立っていることを理解する ○自分の長所・短所を考え見つけ、将来つきたい職業に関心をもつについて考える ○地域の人々や会社がどのような夢をもち、どのような努力や工夫をしているかを理解するし、地域をよりよくする方法を考える ○みんなで協力して働くことの大切さを理解し、実践する</p>	<p>○職業体験などを通じて、勤労を実感し、情報を収集し、つきたい職業について考える、情報を収集する ○働くことの意義を賃金、社会における役割との関係で理解する ○労働と賃金ややりがいの関係について理解する ○ニートやフリーターについて考える</p>	<p>○様々な職業の社会的意義を踏まえながら、職業選択と進路選択・生活設計を関連づけ、将来の自分の姿を現実的に描き、なりたい自分との関係を考える自分が就きたい職業について考える ○働き方や付加価値の付け方によって生涯所得などに大きな差異が生じることを理解し、お金を得たり、夢・希望を実現するためには様々な努力、工夫が必要であることを理解する ○進路選択を通じて具体的に職業選択について考える <上記「様々な職業の…」の項目に統合> ○進路選択（進学、就職など）に伴い、どのような支出や収入（大学での奨学金を含む）が発生するかをシミュレーションし試算し、進路選択の参考とする ○仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の意味を理解する</p>
<p>○こづかいやお年玉を貯めてみる ○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をすることの大切さに気づく<家計管理から移動></p>	<p>○粘り強くやり遂げる態度を身につける<上記「自分の仕事に…」の項目との重複解消> ○貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身につける ○計画的にお金を使うことの大切さを理解し、実践する態度を身につける</p>	<p>○将来を考え金銭を計画的に使うことの大切さを理解し、貯蓄する態度を身につける ○お金のトラブルは家族へ迷惑をかけることを知る<金融取引の基本へ移動> ○お金の使い方は人によって様々なであることを知る</p>	<p>○生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる ○少ないお金でも幸せに暮らしている人の価値観を考え、よりよい生活を築く送るための工夫について考える ○ローンの仕組みと役割、留意点について理解する<ローン・クレジットとの重複解消></p>	<p>○夫まかな生活設計を立て、生涯収入、主な支出の概要を把握する内容について理解する ○現在の自分の生活や学習など、身近な活動にどの程度の費用がかかっているかを知り、現実的な経済感覚を身につける<家計管理へ移動></p>

	<p><u>○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちをもつ</u></p>	<p><u>○お金の使い方と社会との関係について考えるお金の使い方が社会に与える影響について考える</u></p> <p><u>○お金にはならない活動（ボランティア等）を通じてその意義に気づく地域や社会のための活動（ボランティア等）の存在や内容を知り、または体験することを通じてその意義に気づく</u></p> <p><u>○国などの働きの一つとして社会保障があることを知る</u></p>	<p><u>○インターネット等を通じたお金にまつわる身近なトラブル・犯罪事例について考える<インターネット取引へ移動></u></p> <p><u>○個々人の消費や支出の行動が、社会にどのような影響を与えるかについて考える、その影響を踏まえて行動する態度を身につける</u></p> <p><u>○自らの考えに基づいてお金を使う態度を身につけ、社会貢献の様々なあり方（勤労、ボランティア、寄付等）についても考える、実践する態度を身につける</u></p> <p><u>○持続可能な社会やよりよい社会を築くために必要なことを考え、実践しようとする</u></p> <p><u>○自らの生活がどのような形で支えられているかを調べ（親、社会、海外、自然環境等）、理解を深める生活を支えてくれる対象に幅広く視野を広げ（親、社会、海外、自然環境等）、感謝の気持ちをもつ</u></p> <p><u>○社会保障について、その基本的な内容を理解する</u></p>	<p><u>○今後どのようなライフイベントがあるか考え、書き出してみる。また、そのために必要な金額について調べてみる<上記「生活設計を立て、…」の項目との重複解消></u></p> <p><u>○ローンやクレジットカードの仕組みを理解し、返済方式や金利を踏まえ適切な利用方法を考える<ローン・クレジットとの重複解消></u></p> <p><u>○年金や社会保障制度や、様々な金融商品（預金、株式、債券、保険等）の仕組み、特性を理解する<プログラムに合わせて下記の2文に書き分け></u></p> <p><u>○年金や社会保障制度を理解し、自分たちの暮らしの中の役割を考える</u></p> <p><u>○預金、株式、債券、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ</u></p> <p><u>○景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する</u></p> <p><u>○個々人の金銭観と社会のあり方との関係について考え、お金の願いや思いを込めて使う態度を身につけるよりよい社会の実現に向けたお金の使い方をしようとする</u></p> <p><u>○よりよい社会を展望し、それに向けて必要なこと、自分がなすべきことを考え、実行する持続可能な社会やよりよい社会を展望し、それに向けて必要なことを考え、実践しようとする</u></p>
--	--	---	---	---

分類3. 金融取引の基本としての素養

契約にかかる基本的な姿勢の習慣化（報告書：項目3に対応）

情報の入手先や契約の相手方である業者が信頼できる者であるかどうかの確認の習慣化（報告書：項目4に対応）

インターネット取引は利便性が高い一方、対面取引の場合とは異なる注意点があることへの理解（報告書：項目5に対応）

	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
	<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
項目3	<p>○不良品に注意する目的を考えたものを選んで買うことができる</p>	<p>○目的や価格を考えてものを選んで買うことができる ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さに気付く</p>	<p>○ものの選び方、買い方を考え、適切に購入することができる ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さを理解し、工夫する ○情報を活用して選択できる能力を身につける＜下記「項目4」へ移動＞ ○消費生活センターの役割を知る ○お金のトラブルは家族に迷惑をかけることを知り、気をつけるようにする＜生活設計から移動＞</p>	<p>○契約の基本を理解するし、安易な約束はしないなど、慎重な態度を身につける ○消費者基本法を通じて消費者の権利や義務について知り、日常生活に活かす態度を身につける ○製造物責任について理解するし、商品の購入・使用の際に活かす態度を身につける ○環境や社会に配慮した消費生活ができる ○クーリング・オフについての制度とその行使方法を知る ○消費生活センター・国民生活センター等の相談機関の役割を知り、必要に応じて連絡しようとする態度を身につける ○社会で起きる事件や犯罪とお金との関連について考える態度を身につける</p>	<p>○契約の意味と留意点および自己責任について理解するし、内容をよく確認して購入する態度を身につける ○消費者契約法について理解する ○契約や消費者信用などに関し、消費者問題が生じる背景について理解し、こうした問題の発生を回避する態度を身につける ○個人情報の保護について理解するし、個人情報保護について関心をもつ ○情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身につける＜下記「項目4」へ移動＞ ○消費生活センター・国民生活センター等の相談機関の役割を知り、相談できる ○消費者保護の重要性について、情報の非対称性の観点から考える ○環境や社会に配慮した生活が営めるようにライフスタイルを工夫する</p>
	<p>○約束を守ることの大切さに気付く</p>	<p>○ルールきまりを守ることの大切さを理解するし、実践する</p>	<p>○法律法やきまりを守る意識をもつ</p>	<p>○法やルールきまりを守ることと社会の秩序との関係について理解するし、実践する</p>	<p>○法やルールを遵守することは市場経済が十分機能する上でも重要であることを理解する</p>

項目 4			<p>○消費生活に関する情報を活用して選択できる能力を身につける<上記「項目 3」から移動し、プログラムに合わせて修正></p> <p>○小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、注意する</p>	<p>○消費生活に関する情報を活用して選択する能力を身につける</p> <p>○悪質商法や詐欺商法を見分け、被害に遭わないようにすることを学ぶ技能を身につける</p>	<p>○情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身につける<上記「項目 3」から移動></p> <p>○多重債務に陥った人の現状を知り、注意する</p> <p>○情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、情報を収集することができる<下記「項目 5」に統合></p>
項目 5			<p>○インターネット、携帯電話による小学生のトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身につける</p>	<p>○インターネット等を通じたお金にまつわる身近なトラブル・犯罪事例について考える<分類 2 から移動。但し、下記の項目に統合></p> <p>○ID・パスワードなどの個人認証とともに、ウイルスチェック、情報の暗号化などについて知る<下記の項目に統合></p> <p>○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解する<下記の一文に統合></p> <p>○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解するし、適切に行動する態度を身につける</p>	<p>○ID・パスワードなどの個人認証とともに、ウイルスチェック、情報の暗号化などについて知る</p> <p>○トラブルに対処する具体的方法を学び、実際に行使できる技能を養う</p> <p>○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身につける<左記と同様に、インターネット関連項目を内容面で統合></p>

金融経済教育において基礎となる重要な事項（金利（単利、複利）、インフレ、デフレ、為替、リスク・リターン等）や金融経済情勢に応じた金融商品の利用選択についての理解（報告書：項目6に相当）

取引の実質的なコスト（価格）について把握することの重要性の理解（報告書：項目7に相当）

		小学生			中学生	高校生	
		低学年	中学年	高学年			
		<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>		<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
項目6	<p>お金や金融のはたらき</p>	<p>○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解する <u>し、実際にものやサービスを購入する</u> ○硬貨や紙幣を識別できる</p>	<p>○お金は貯めて将来使えることを理解する ○銀行や郵便局に預貯金し、利息について理解する<u>銀行にお金を預けると、利息がつくことを理解する</u></p>	<p>○暮らしを通じてお金のさまざまな役割はたらきを理解する ○<u>預金、貸出等の</u>銀行の基本的機能について理解する</p>	<p>○お金の役割を整理して理解する ○金融機関の種類と機能について理解する ○間接金融、直接金融のしくみについて理解する<u>金融には間接金融と直接金融があることを理解する</u> ○中央銀行の機能について理解する ○金利のきまり方を理解する ○<u>銀行の決済機能について理解する</u>さまざまな決済のしくみと方法について理解する ○各種カードの機能、しくみを理解する</p>	<p>○<u>お金の役割を理論的に把握する貨幣の機能を理解する</u> ○間接金融、直接金融の機能・特徴について理解する<u>間接金融、直接金融について理解する</u> ○金利の機能と変動の理由について理解する ○中央銀行の機能について理解を深める ○電子マネー等、<u>様々な決済手段、地域通貨等</u>について理解する ○<u>決済機能の多様化について理解する</u></p>	
	貯蓄・資産運用			<p>○<u>金利計算（単利計算）ができる金利計算（単利）などを通じて主な預金商品とその利息の違いについて理解する</u></p>	<p>○<u>株式や債券について理解する金融商品には株式や債券などがあることを理解する</u> ○お金を投資する意義について考える ○リスクとリターンの関係について理解する ○期間と金利の関係（複利計算）を知り<u>金利計算（複利）を理解し</u>、継続して貯蓄に取り組む態度を身につける</p>	<p>○<u>預貯金、株式、投資信託、保険等、様々な金融商品の内容を理解する</u><u>預金、株式、債券、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ</u> ○金融商品のリスクとリターンの<u>関係やリスクの管理</u>について理解する ○<u>資金運用のバランスを考え、自己責任で選択する意識をもつ</u><u>＜資産形成との重複解消＞</u> ○<u>投機と投資の違いを考える</u><u>＜資産形成へ移動＞</u></p>	

						○お金の価値と時間との関係について理解する期間と金利（複利）の関係を理解し、継続して貯蓄に取り組む態度を身につける
経済変動と経済政策		○自分の暮らしや地域の生産活動と景気変動の <u>関係に気づく地域の生産活動と自分の暮らしとの関係について考える</u>	○景気変動すると暮らしや社会が <u>どうなるかを理解する地域の生産や販売活動の変化が暮らしや社会に与える影響を理解する</u>	○経済が変動する理由を理解する ○ <u>経済変動とマクロ諸指標の関係を理解する現実の経済の動きと経済指標の関係を理解する</u> ○中央銀行が行う金融政策について理解する ○政府の <u>景気対策経済対策と暮らしとの関係</u> について理解する	○経済変動のマクロ的なメカニズムを整理して <u>と個人の生活への影響を理解する</u> ○ <u>経済政策についてその手段や狙いを政府の経済政策と暮らしとの関係について理解する</u> ○中央銀行の金融政策についてその手段や狙いを理解する ○政府の <u>景気対策経済対策</u> と財政赤字の <u>関係</u> について理解する ○インフレ、デフレの意味、暮らしへの影響について理解する	
経済把握	○ <u>ものには価値があることを知る</u> ○ものとお金は交換されることを知る	○地域の生産活動を調査し、ものやお金はどう動いているのかを理解する ○ものの値段がどのように決まるのかを理解するし、 <u>栽培したものや製作したものの値段を決めて販売する活動を行う</u> ○会社のはたらきや役割を理解する	○家計、企業、政府、銀行の間のものお金のやりとりについて理解する ○ <u>農家や工場で働く人々の工夫や努力について、価格や費用を含めて理解する</u> ○ものの値段がどうして変わるのかを理解する ○ <u>企業はお金を借りて投資を行っていることを理解する</u> ○海外との間のものお金のやりとりについて理解する	○家計、企業、金融機関、政府、海外の間のものお金の流れを理解する ○円高・円安の意味と生活への影響を理解する ○株式会社の機能と役割、社会的責任について、 <u>模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解する</u> ○企業が行う様々な資金調達方法について理解する ○ <u>企業は調達した資金で設備投資を行っていることを理解する</u> ○ <u>市場経済において、価格が希少資源を効率よく配分する働きをもつことを理解する</u>	○家計、企業、金融機関、政府、海外の間のものお金、人の <u>流れの全体図を描く全体的な流れについて理解する</u> ○ <u>市場経済およびそこで行われる選択や競争の意義について理解する</u> ○商品市場、金融市場、証券市場、為替市場の働きと機能を理解する ○企業の成立、存在意義、社会的機能について理解する ○経済のグローバル化について理解する ○ <u>情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、経済情報を収集することができる<下記「現代の…」の項目に統合></u>	
その他	○お店の人の工夫や努力に気づく ○ <u>公共施設などの利用にはお金が必要であることに気づく</u>	○お店の人の願いを知り、様々な苦労や工夫をしていることに気づく ○ <u>納税が国民の義務であることを理解する社会を支えているさまざまな公共活動とそれに必要なお金について理解する</u>	○地域の人々や会社がどのような夢をもち、どのような努力や工夫をしているかを理解するし、 <u>地域をよりよくする方法を考える</u> ○ <u>仕事をすることでお金が得られることを理解する<生活設計との重複解消></u> ○ <u>自分の暮らしと関連づけながら社会で起こっている問題に関心をもつ</u>	○ <u>様々な働き方・職種を理解する<生活設計との重複解消></u> ○会社づくりのシミュレーションを通じ、会社経営のしくみや工夫、努力の必要性を理解する ○歳入・歳出両面から政府の役割を理解する ○ <u>新聞を読む習慣を身につける</u> ○ <u>少子高齢化やグローバル化、情報化の進展に伴う経済に関わる問題について関心をもつ</u> ○ <u>経済活動に対する規制の存在を知り、規制緩和の意義について理解する</u>	○ <u>将来の働き方・職種によって収入が異なることを理解する<生活設計との重複解消></u> ○ <u>職業選択に必要な能力開発や資格取得を行う</u> ○ <u>起業を考え、それに必要な知識と実践的な企画を考える起業に必要な知識を身につけ、新たなビジネスについて考える</u> ○会社経営において付加価値を高める方法を理解する ○現代の経済社会の課題について情報を収集し、整理することができる	

			<p>○税金の<u>主な種類とその意義、および納税が国民の義務であることについて</u>を理解する</p>	<p>○<u>労働者の権利について理解する</u> ○<u>経済社会の課題について幅広く関心をもち、自ら考える態度を身につける</u></p>	<p>○<u>経済社会の課題解決に向けて政府が行うべき施策について考える</u> ○<u>政府の財政赤字の問題を考えてみる</u> ○<u>生きたお金の使い方について考える</u> ○<u>租税制度の基本と財政政策の目的を理解する</u> ○<u>政府が経済的な自由の保障、効率と公正の確保などを目指して経済政策を行っていることを理解する</u> ○<u>企業の社会的責任と社会貢献のあり方について、自分の職業選択と関連づけて考える態度を身につける</u> ○<u>働く者の権利を理解する</u> ○<u>課題の解決に向けて、自ら合理的、主体的に関わろうとしている</u></p>
項目 7					<p>○<u>預貯金、株式、投資信託、保険等、様々な金融商品の内容を理解する</u> ○<u>預金、株式、債券、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解する</u></p>

分類5. 保険商品

自分にとって保険でカバーすべき事象（死亡・疾病・火災等）が何かの理解（報告書：項目8に対応）

カバーすべき事象発現時の経済的保障の必要額の理解（報告書：項目9に対応）

	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
	<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
項目8	<p>○アクシデントに対する備えの必要性を認識している</p> <p>○家族や自分自身が事故や災害、死亡、疾病、傷害等に遭った場合、生活に大きな影響を受けることを認識している</p> <p>○「防災」「防犯」「交通安全」を通じて、身の回りにある危険を認識し、その危険から身の安全を確保する方法（回避・軽減など）を理解し、実践する</p> <p>○自転車の運転などを通じ、他人に損害を与える可能性があることを認識し、安全な行動を心がける</p>			<p>○社会生活には様々なリスクがあり、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうることを理解している</p> <p>○リスクを回避したり、損失を防止・軽減したりするための方法を学び、実践する</p> <p>○保険はリスクを移転する手段であることを理解する</p>	<p>○他人の身体や財産に損害を与えてしまった場合、弁償（損害賠償責任が発生する）しなければならないことを理解している</p> <p>○保険と預貯金の機能の違いについて理解している</p> <p>○様々なリスクごとに転嫁手段のひとつとして保険があることを理解している</p> <p>○日常生活において様々なリスクが存在することを認識し、リスクが現実となった場合の経済的損失の大きさを理解する</p> <p>○保険には、社会保険と民間保険があることを理解している保険には様々な種類があることを理解する</p>
	<p>○身の回りの危険に気づき、安全に生活することの大切さを理解する</p>	<p>○自分や家族が、事故や災害、病気に見舞われると、生活に大きく影響することを理解する</p> <p>○日常生活の中で他人にけがをさせたり、人の物を壊したりする可能性があることに気づき、注意する</p> <p>○事故の防止や災害への備えが必要であることを認識し、実践する</p>	<p>○アクシデントに備えるためのツールの一つとしての保険の存在を認識している</p> <p>○日常生活には様々な事故や災害が発生する可能性があることを理解する</p> <p>○自分が他人にけがを負わせたり、人の物を壊したりした場合の影響を考え、気をつけて行動する</p> <p>○修学旅行などに際して保険をかけていることを理解する</p>	<p>○日常生活において様々なリスクが存在することを理解する</p> <p>○事故や災害、病気などのリスクや負担を軽減させるための手段のひとつに保険があることを理解する</p>	
項目9					<p>○リスクが顕在化した時の経済的損失の大きさを理解している</p> <p>○社会保険と民間保険との補完関係を理解している</p>

分類6. ローン・クレジット

住宅ローンを組む際の留意点の理解（報告書：項目10に対応）

- ① 無理のない借入限度額の設定、返済計画を立てることの重要性
- ② 返済を困難とする諸事情の発生への備えの重要性

無計画・無謀なカードローン等やクレジットカードの利用を行わないことの習慣化（報告書：項目11に対応）

	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
	<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
項目10・11	<p>○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする必要性に気づく<<生活設計との重複解消>></p>	<p>○こづかい帳をつける<家計管理との重複解消> ○困ったときの対処方法や相談の仕方を身につける<外部知見との重複解消> ○子ども同士でお金の貸し借りはしないようにする</p>	<p>○将来を考えお金を計画的に使うことの大切さを理解する<生活設計との重複解消> ○小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、注意する ○子ども同士でお金の貸し借りはしない</p>	<p>○ローンのしくみと機能、留意点について理解する ○生活設計の必要性について理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる<生活設計との重複解消> ○クレジットカードの使用上の留意点について学ぶを理解し、適切に行動する態度を身につける ○金利計算能力を身につけ、金利の重さを負担について理解するし、適切に行動する態度を身につける ○トラブルに遭ったときの相談窓口を知る<外部知見との重複解消></p>	<p>○ローンのしくみを理解し、返済方法や金利について考える ○生活設計を立て、生涯収入、支出の内容を把握する<生活設計との重複解消> ○各種カードの役割や機能と使用上の留意点を学ぶ理解し、適切に行動する態度を身につける ○多重債務に陥った人の現状を知り、安易な借入れを避ける ○金利の高さとローン返済額の実感をもって知り、金利の重さを理解するローンの金利と返済額との関係および金利負担について具体例を通して理解し、適切に行動する態度を身につける ○多重債務の相談窓口などを知り、相談できる<外部知見との重複解消></p>

分類7. 資産形成商品

人によってリスク許容度は異なるが、仮により高いリターンを得ようとする場合には、より高いリスクを伴うことの理解（報告書：項目12に対応）

資産形成における分散（運用資産の分散、投資時期の分散）の効果の理解（報告書：項目13に対応）

資産形成における長期運用の効果の理解（報告書：項目14に対応）

	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
	<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づけたい。</p>
項目12				<p>○リスクとリターンの関係について理解する ○<u>お金を投資する意義について考える</u></p>	<p>○資産運用する場合の金融商品の「リスク」は一般に“危険”ではなく“不確実性”を指すことを理解するとともに、リスクにはさまざまな種類があることを理解する（価格変動リスク、信用リスクなど）<u>預金、債券、株式、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ</u> ○金融商品のリスクとリターンの<u>関係やリスクの管理</u>について理解する ○家計資産のマネジメントとして、自らのリスク許容度を把握することができる ○投資と投機、賭け事の違いを考える</p>
項目13・14			<p>○<u>金利計算（単利）などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する</u></p>	<p>○期間と金利の関係（単利計算・複利計算）を知り金利計算（複利）を理解し、継続して貯蓄に取り組む態度を身につける</p>	<p>○ポートフォリオ（運用資産の組み合わせ）によってリスクを抑えることができることを理解する ○資金運用のバランスを考え、自己責任で金融商品を選択する意識をもつ ○期間と金利の関係（単利計算・複利計算）を知り、長期に運用する効果を理解する期間と金利（複利）の関係を理解し、<u>継続して貯蓄に取り組む態度を身につける</u></p>

					<p>○リスク管理の観点から、長期運用が価格変動リスクを平準化する効果があることを理解する</p> <p>○資金運用については、自己責任のもと、長期的な視点からバランスよく金融商品を選択する必要があることを理解する</p>
--	--	--	--	--	---

分類8 外部の知見の適切な活用

金融商品を利用するにあたり、外部の知見を適切に活用する必要性の理解（報告書：項目15に対応）

小学生			中学生	高校生
低学年	中学年	高学年		
<p>お金にかかわって徐々に経験・知識・技能を身につける段階。買い物、こづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金や社会・経済に関心を持ち、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につけるなど、社会の中で生きていく力の素地を形成することが望まれる。お金に関する知識は当初バラバラであるが、少しずつ体系化されることが期待される。教科等で学習する内容（低学年・中学年・高学年）との関連を図りながら実践したい。</p>			<p>経済や金融と生活のかかわりについて基礎的な理解を形成し、将来の自立に向けた基本的な力を養う時期。こづかい管理や買い物の経験も増え、行動が広がり、家計や生活設計について理解できる。勤労や職業の意義を理解し、将来の生活についてもある程度具体的に構想できる。</p>	<p>社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期。生涯を見通した生活設計の重要性や社会的責任について理解できる。進路選択などで主体的な判断も求められる。経済や金融に関する学習と、実践的な学習を関連させ、「ひとり立ち」を展望できる状態に近づきたい。</p>
	<p>○困ったときの対処方法や相談の仕方を身につける</p>	<p>○情報を活用して選択できる能力を身につける ○小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、注意する ○消費生活センターの役割を知る 消費生活センターの場所や役割、困った時に相談できる窓口であることを知らせることができる</p>	<p>○契約の基本を理解する契約の基本を理解し、安易な約束はしないなど、慎重な態度を身につける ○預貯金、株や債券について理解する金融商品には株式や債券などがあることを理解する ○金利計算能力（複利を含む）を身につけ、金利の重要性を理解する金利計算能力を身につけ、金利負担について理解し、適切に行動する態度を身につける ○リスクとリターンの関係について理解する ○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解するし、適切に行動する態度を身につける ○悪質商法や詐欺商法を見分け、詐欺に遭わないようにすることを学ぶ技能を身につける ○トラブルに遭ったときの相談窓口を知り、必要に応じて連絡しようとする態度を身につける</p>	<p>○預貯金、株式、債券、保険等について理解する預金、株式、債券、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ ○金利の高さとローン返済額との関係を知り、金利の重要性を実感するローンの金利とローン返済額の関係および金利負担について理解し、適切に行動する態度を身につける ○預貯金、株式、債券、保険等金融商品のリスクとリターンの関係やリスクの管理について理解する ○情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身につける ○資金運用のバランスを考え自己責任について理解する資金運用については、自己責任のもと、長期的な視点からバランスよく選択する必要があることを理解する ○消費者トラブルや雇用条件などに関するトラブルに対処する具体的方法を学び、実際に行使できる技能を養う ○多重債務の相談窓口などを知り、相談できる</p>